

2012年度日本福祉文化学会第2回理事会議事録

日時；2012年9月29日（土）10：00～12：00

場所；倉敷市芸文館・アイシアター202会議室

参加者

理事：河東田博・石田易司・島田治子・雨宮洋子・石井バーグマン麻子・磯部幸子・大澤澄男・梅津迪子・岡村ヒロ子・木村たき子・國光登志子・多田千尋・馬場清・平田厚・マーレー寛子

評議員：佐々木隆夫（陪席）

出席15名 委任状4名

理事数22名中、理事出席者15名、委任状出席4名あり、規約第10条第2項に基づき定足数に達している旨、磯部事務局長より報告。理事会の成立を確認し、議事に入る。

1. 議長選出

慣例として会長が理事会の議長を行うことに従い、河東田会長を議長として選出。

2. 前回理事会議事録の確認

原案通り確認。

3. 議事録署名人の選出

國光登志子理事、梅津迪子理事を選出。

4. 協議事項

第1号議案 2012年度災害支援活動計画（案）及び予算書（案）について

石田副会長（災害支援委員会委員長代行）より、活動計画（一部実施済み）について説明。①会員の支援活動についてのアンケート調査、②「災害と福祉文化実践報告集」の発行、③全国の災害支援活動団体への調査、④現場セミナーの開催を行った。

①については、概要は『災害と福祉文化実践報告集』に報告。

詳細は『福祉文化研究』22号に掲載予定。

②については、岡山大会で発刊。会員より計13本の報告があった。

③については、回収率高く、現在整理中。『福祉文化研究』22号の誌上で報告予定。

④については、9月に気仙沼大島で実施。14名が参加。報告は「福祉文化通信」69号誌上に掲載。

次に予算書について説明。

協議の上、全会一致で原案通り承認。

第2号議案 収支補正予算書（案）について

磯部事務局長より、2012年度収支補正予算書（案）について説明。災害支援活動費50万円を新たに追加。内訳は第1号議案の予算書参照。

協議の上、全会一致で原案通り承認。

第3号議案 2013年度日本福祉文化学会事業方針（案）について

島田副会長より、2013年度事業方針（案）について、特に重点目標4点について説明があった。

第3号議案 2013年度日本福祉文化学会事業方針（案）について

島田副会長より、2013年度事業方針（案）について、特に重点目標5点について説明があった。

- 1 災害支援のための継続的研究・実践活動の推薦
- 2 福祉文化現場セミナーの継続と充実
- 3 国際交流福祉文化活動の取り組みの強化
- 4 全国大会・会員総会の開催と内容の充実
- 5 ブロック活動・委員会の組織的運営と会員参加活動の促進

佐々木評議員から、1の目標について「災害支援」といったとき、東日本大震災以外の災害についても対象となるのかとの質問があった。

石田副会長より現時点での計画は、東日本大震災に関わる支援活動を指しているが、当然様々な対象が考えられるので、今後必要になってきた場合には、その段階で判断して、補正予算を組むようにしたいと説明した。また、現在 JR 西日本あんしん社会財団の助成金に関西ブロックとして申請中。ほかにも、河東田会長も他団体へ助成金を申請中。こうした他団体の助成金も活用しながら、来年度の活動を行っていきたいと説明した。

協議の上、全会一致で原案通り承認された。

第4号議案 2013年度収支予算書（案）について

磯部事務局長より、2013年度収支予算書（案）について説明。収入は繰越金が減額するとの予測に基づいて算出。それに伴い、支出も減額せざるをえない。事務管理費については、例年、ほぼ計上した額で固定的に支出されることが多い科目でもあるので、事業費を減額していると説明した。

佐々木評議員より、研究誌のデータ化に伴い、紙媒体のものについては、廃止する方向性で考えているのかとの質問があった。

磯部「福祉文化研究」編集委員より、編集委員会では、会員の状況を考慮し、しばらくは紙媒体のものを出していくことを確認した旨報告があった。

河東田会長からは、理事会では、自分だけが紙媒体は「なくしたい。」意見であった旨説明された。

次に、石田副会長より、地方ブロック活動費について、全ブロックが活動したら助成ができない金額の計上になっている。予算書としては全てのブロックで活動した場合を想定して計上すべきではないかとの意見があった。

それに対して、河東田会長より、この形で進め、必要であれば、補正を組む方向性で考えたいとの意見が出された。

協議の上、全会一致で原案通り承認された。

第5号議案 「福祉文化研究」掲載論文等のweb上の公開について

（資料は当日差し替えている）

木村理事（総務委員会担当）より、「福祉文化研究」掲載論文のweb上の公開について、説明があった。時代の要請を踏まえ、「福祉文化研究」の掲載論文をweb上で公開すること、それに伴い、創刊号から18号までは学会の著作権規定がなかったため、著作権の譲渡等について手続きの必要がある旨、説明があった。

河東田会長より、最近、日本学術振興会から10月末までに、著作物の引用件数についての報告の要請があった。広く公の場で使ってもらうことが前提としてある。そのこともふまえて、公開する必要があるとの補足説明があった。

協議の上、全会一致で原案通り承認された。

第6号議案 外国在住会員の会費について

木村理事（総務委員会担当）より、他学会にも問い合わせた結果、現状に鑑み、外国在住会員について、特別扱いはせずに現状通りとしたい旨、説明があった。

石田副会長より、日本への留学生で母国に帰ったときに物価の違い等によって、会員が継続できない人がいた。東アジア等、これから国際交流を進めていこうとしている中で、多少配慮してもらってもいいのではないかと考え、検討を依頼したと補足説明された。

マーレー理事より、海外にいと会員特典である大会への参加、現場セミナーへの参加等が難しい。別の配慮があってもいいのではないかと考えるとの意見が出された。

梅津理事より、外国人会員は何名いるのかとの質問があった。現在は0名。

石井理事より、学会によっては、海外会員の場合、郵送料は自己負担という例もあるとの意見が述べられた。また東アジアの会員に配慮するのはいいと思うのが、基準を検討するのはかなり難しいとの意見があった。

大澤会員より、海外会員というより、減免規定を考えるべきとの意見があった。

今後は、国際交流事業と関連させながら、海外の会員を獲得する方法について、国際交流委員会を中心に検討をすすめていくこと、また会員の減免規定については、総務委員会で検討をすすめていくことを条件に、原案通り承認された。

5. 報告事項

1 会員の状況について

磯部事務局長より、資料について説明。新規入会者、坪田会員の所属を「久留米大学大学院」に変更。北陸ブロックの宮川深雪さんが抜けているのではないかと指摘があった。事務局で確認したところ、すでに前回の理事会で確認済みとのことだった。

2 福祉文化現場セミナーの位置づけと予算執行について

木村理事より、資料について説明。各ブロックで実施する場合には、ブロック活動費で行い、広く会員に公開していくこと。また予算書上の「現場セミナー」については、企画されたものを理事会で承認した後に執行することと整理をした。

3 2012年度ブロック及び委員会事業状況ならびに後期事業予定について

① 災害支援会員アンケート結果報告ならびに「震災支援活動実践報告集」の発行
すでに報告済み

② 震災支援現場セミナー「気仙沼・大島に学ぶ」報告
すでに報告済み

③ 福祉文化よもやまゼミナール経過報告

馬場理事（研究委員会担当）より報告。すでに2回実施。内容はホームページ上で公開。2年後の大会で何らかの形でまとめる予定

河東田会長より、研究誌の分析について、論文として福祉文化研究に掲載してもらいたいとの意見。研究委員会で検討することとなった。

④ 日韓交流セミナーについて

国際交流委員会として、日韓交流セミナーを計画している。元会員で、韓国からの留学生が母国に戻り、農村地域の高齢者の暮らしについて研究。2月9日～11日で実施。

⑤ 各ブロック活動報告

1) 東北ブロック（大澤理事）

ブロック会員向けにアンケートをとった。青森の増山会員と連携して、何か活動できるかどうか検討する。本部への厳しい意見もある。

馬場理事より、本部への厳しい意見というのは何かとの質問に対して、仙台大会において、現地無視というような意見もあった。大会事務局（関西ブロック）としては、小池会員等を通じて、東北ブロックとしての実施について、事前に検討を依頼した経緯がある。しかし、3.11の直後でもあり、とても難しいとの意見をいただき、関西ブロックとしてあえて自分たちで運営した。こうした経過が誤解を受けたことは残念であるが、今後解きほぐしながら、何ができるか、考えていきたいとの意見が述べられた。

2) 関東ブロック（梅津理事）

研究交流会「認知症高齢者のひとり暮らしはどこまで可能か」を実施。前回より多くの参加あり。こうした活動を少しずつ繰り返していく予定。

3) 東海・中部ブロック（平田理事）

東海・中部ブロック全体にも呼びかけたが、なかなか全体の活動をしていくのが難しい。とはいえ「静岡福祉文化考える会」を中心にして、今後も「地方発福祉文化の創造」を実践していきたい。

4) 北陸ブロック（石井理事）

新潟中心に活動。今年度は「買い物弱者」をテーマに現場セミナーを11月に実施。今後は、北陸ブロック全体での活動にしていきたい。来年度は、福井県で何か出来ないかと考えている。鯖江市での取組を考えるセミナーを予定。

5) 関西ブロック（岡村理事）今年度の気仙沼・大島現場セミナーを受けて、今後現地ニーズに合わせた継続的支援活動（気仙沼大島の子どもたちのキャンプなど）を行っていききたいと考えて企画。

6) 中国・四国ブロック（佐々木評議員）

岡山大会準備の1年間であった。

7) 九州ブロック（雨宮理事）

月1回の高齢者に関する研修会実施。音楽、読み聞かせなど。高齢者アクティビティ開発センターと連携しながら、会員拡大を図っていきたい。長崎純心大学で一番ヶ瀬元会長の追悼セミナーを行う予定。また自分たちの活動が読売新聞で認知症ケア賞を受賞。

⑥ 各委員会報告

1) 総務委員会（木村理事）

「会員の声の集約」について、各ブロック担当理事に実施をしていただきたい。

2) 研究委員会

資料の通り。

3) 企画委員会

資料の通り。

4) 広報委員会

資料の通り。

5) 「福祉文化研究」編集委員会

資料の通り。

6) 福祉文化実践報告集編集委員会

資料の通り。

7) 将来構想委員会

資料の通り。

8) 国際交流委員会

資料の通り。2月に韓国交流セミナー予定。

9) 災害と福祉文化委員会

資料の通り。

10) 福祉文化実践学会賞選考委員会

資料の通り。

4 本日の懇親会におけるブロックごとの会員の交流について

島田副会長より報告。大会時の懇親会で、ブロックごとに集まっていたいただき、会員相互の交流を行う機会としていただきたい。特に新しく会員なった方については、紹介する時間を確保したい。

5 その他

一番ヶ瀬元会長の追悼セミナーについて、馬場理事に責任者を依頼。これから遺志を引き継いでどのようにしていかなければならないのかについて考える機会とする。12月1日を予定。

以 上

2012年 11 月 10 日

議事録署名人

國光登志子 

議事録署名人

梅津迪子 